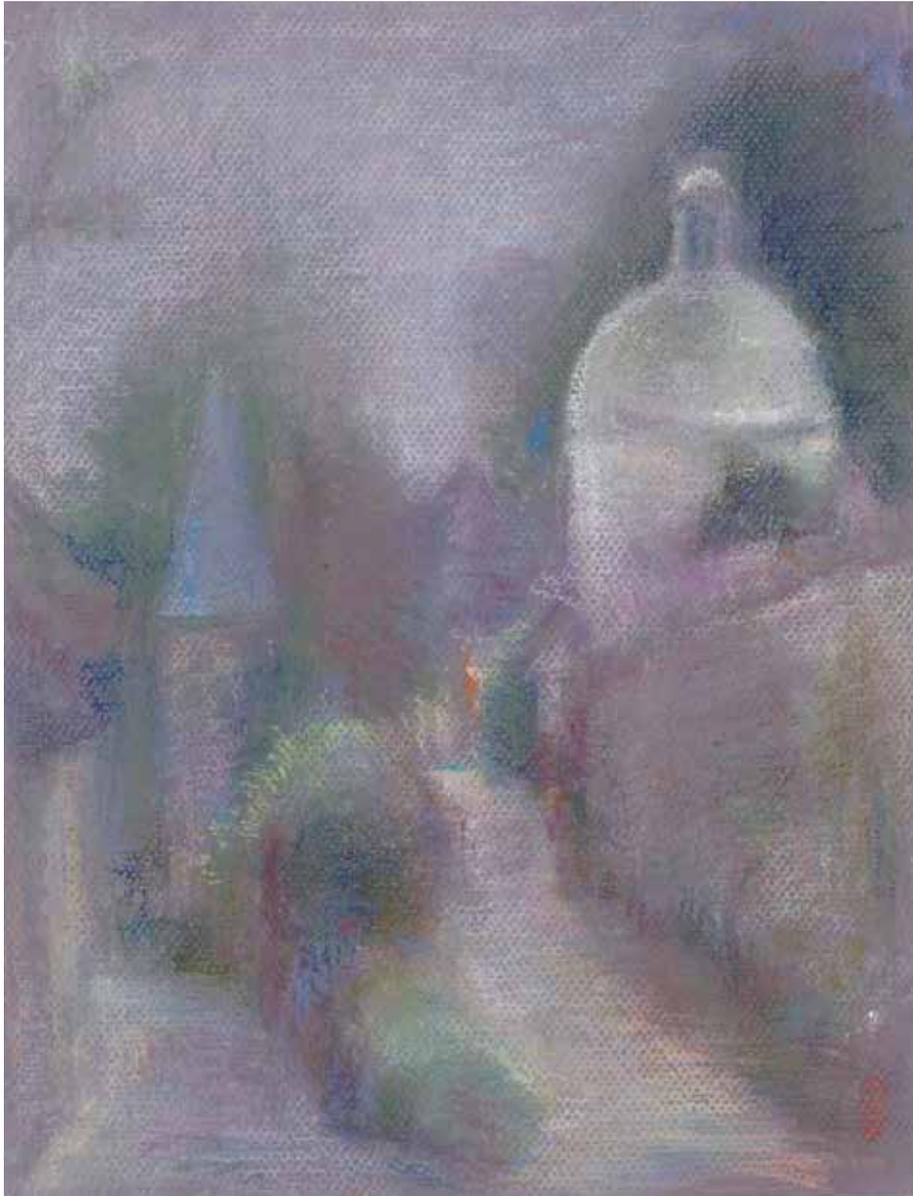


不二

中高版

9

2022



令和4年度第2回昇格・昇段試験課題発表

公益財団法人 日本書道教育学会

漢字半紙（誌友・準誌友＝月例課題
八段～五段＝昇格・昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

やまとたけるのみこと
日本武尊像

日本武尊像

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

八段～五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

漢字半紙（四段～初段＝昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

能の
登と
半はん
島とう

能半
登島

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。

漢字半紙（1級＝昇段課題
2級～10級＝月例課題）

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

課題は段級別です。ご注意ください。

ひやくまんごく
百萬石

百萬石

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

かな半紙 (誌友・準誌友＝月例課題 八段～五段＝昇格・昇段課題)

課題は段級別です。ご注意ください。

秀歌しゅうか之體のてい大略たいりやく

(筆者) 近衛家熙このえいえひろ (一六六七～一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)



秋立ちて幾日もあらねどこの寝ぬる朝明の風は手本涼しも
『万葉集 卷八一五五五 安貴王』

(解説は18ページ)

短冊について

鎌倉末期頃より和歌をしいたためる書式として広まりました。横約6cm、縦約36・5cmの大ききで全懐紙をたてに八等分した大ききです。短冊には上下があり、雲・霞形は広いほうが、濃淡は濃いほうが、着色が異なる場合には色の濃いほうが上といったもので、練習用紙ならば、糊付けされている方が上になります。

書式

伝統的な書式

- 短冊の上部を1/3または1/4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないよう、少し空けるとよいでしょう。
- 行間や、字粒にも気をつけ、作品として調和するよう心がけましょう。また最近では、このような伝統的な書式にこだわらず、自由に書くこともあります。

- 出品の際には、必ずバーコード出品券と月別出品券を表面左下に貼付けしてください。裏面には不二教室名、氏名を鉛筆書きしてください。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。

二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1/4 (約9cm) またはおよそ1/3 (約12cm) 空ける



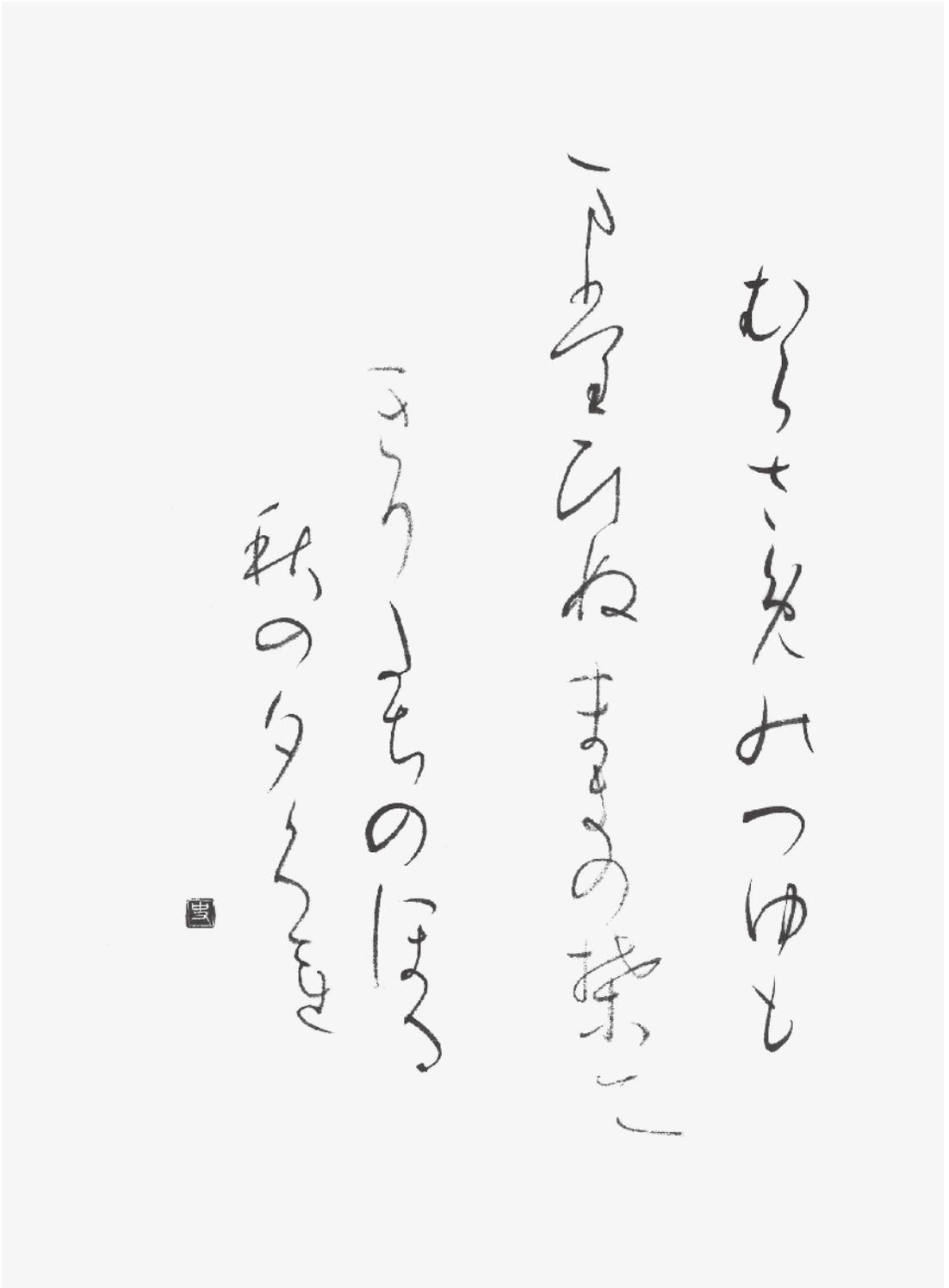
幅 約6cm

八段～五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

かな半紙（四段～初段＝昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

村雨の露もまだひぬまきの葉に霧たちのぼる秋の夕ぐれ（寂蓮法師）



川島史子先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

署名では姓名を記す

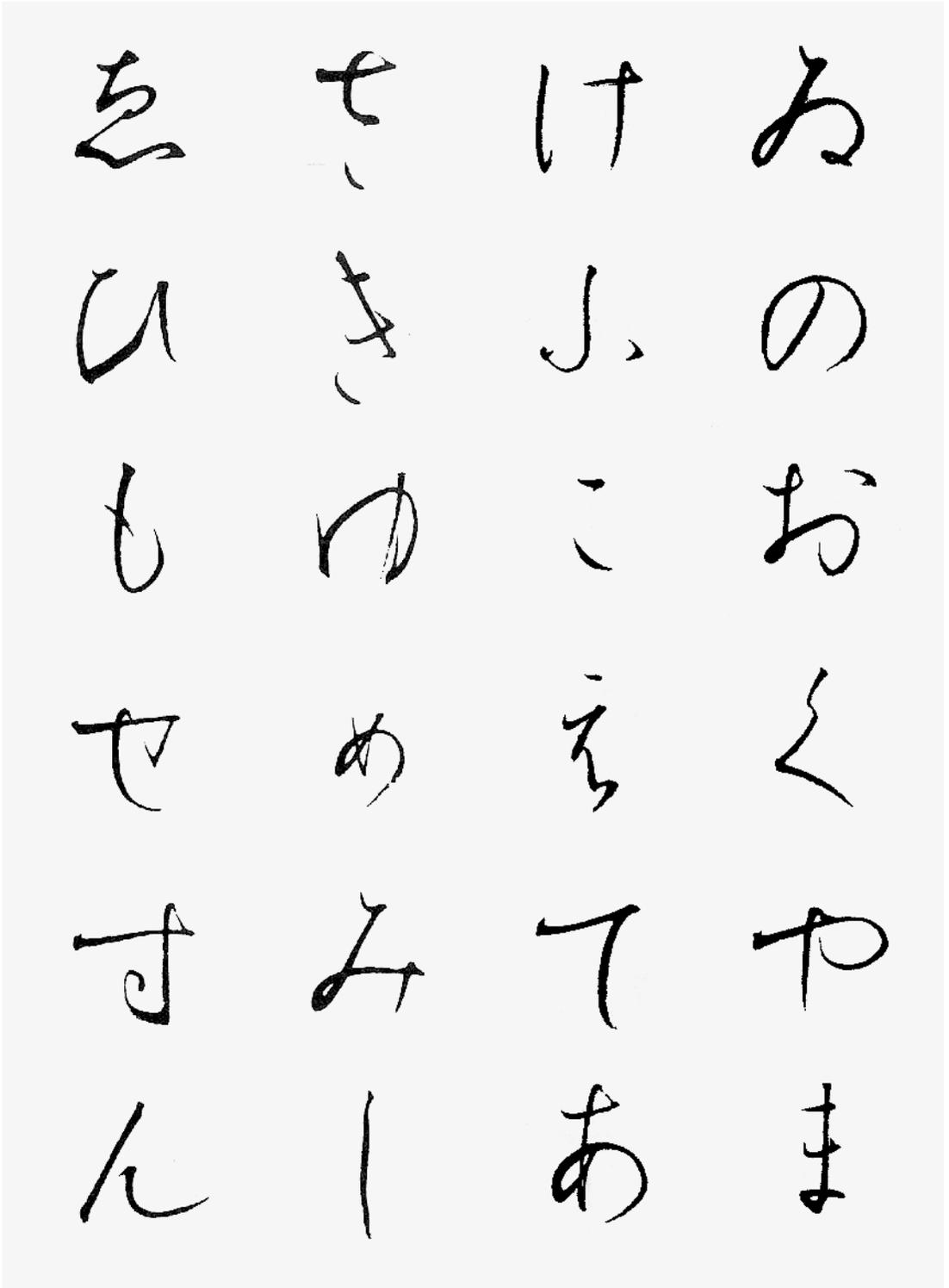
（解説は18ページ）

かな半紙 (1級=昇段課題
2級~10級=月例課題)

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

課題は段級別です。ご注意ください。

ゐのお久^くやま
けふこえてあ
さきゆめみし
恵^ゑひもせ^す寸^すん



署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

安東聖空書「梅雪かな帖」より

漢字条幅

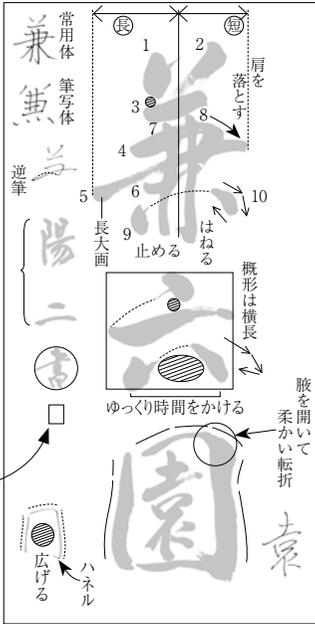
(1級Ⅱ昇段課題
2級Ⅴ10級Ⅱ月例課題)

課題は段級別です。
ご注意ください。

小久保嶺石先生書



(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)



兼六園
けんろくえん

〔大意〕国指定特別名勝。岡山の後楽園、水戸の偕楽園と並ぶ日本三名園の一つである。

〔解説〕

- ・行書の基本的な書きぶりを学ぼう。
- ・半切二分の一という紙の大きさ、〇〇書(〇〇が書いた)という落款の書き方を学ぼう。
- ・太細、曲直、墨量に変化をつけて制作しよう。
- ※落款…落成款識の略。書画作品を書いた後、署名捺印すること。署名だけ、押印だけを指すこともある。

〔用具・用材〕

- 筆Ⅱ永昌条幅
- 墨Ⅱ和墨
- 紙Ⅱ中国画仙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

兼…常用体に近い形で書いている。終わりの2画は「ハ」にして明るく。他に筆写体には長大画を短くして、右側も突き出さない書きぶりや、脚部をれんが(烈火)のように4つの点にする書きぶりもある。

六…二画目は鋒を引き上げながら書き、収筆は押さえつけないように。三、四画目は時間をかけて丁寧に。

園…常用体で書いている。国構を外側に広げて、土衣をゆつたりと入れる。

かな条幅

（誌友・準誌友Ⅱ月例課題
八段Ⅰ級Ⅱ昇格・昇段課題
2級Ⅰ0級Ⅱ月例課題）

須山万寿先生書



しほらしき名や小松吹萩薄

（用紙 画仙紙半折・たて 136cm × よこ 35cm）

〈読み〉 志ほらしき那やこ万つふ久萩す、き

〈作者〉 松尾芭蕉（一六四四～一六九四）

伊賀国の生まれ。

〈大意〉

小松とはなんとかわい名前の土地
であろう。地名も同じその小松の生
える野辺に吹く秋風が、萩や薄を吹
きなびかせる様子もしおらしく感じ
られることだ。

〈解説〉

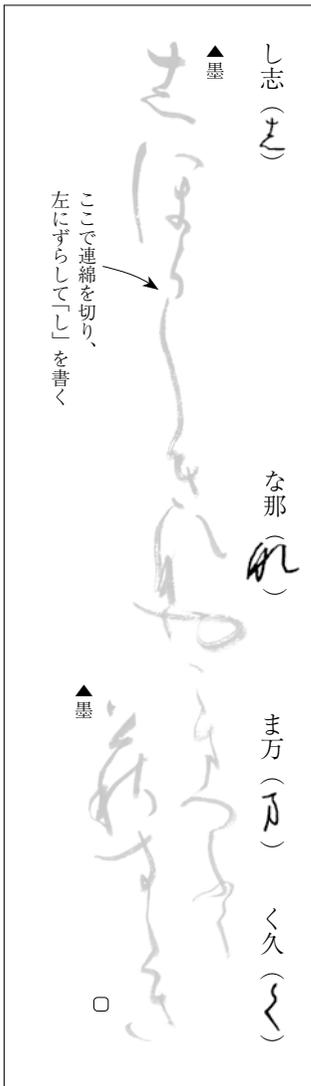
○今月はむずかしい字は使用せず漢字も
「萩」だけです。変体がなもよく使われる
文字です。

○「ほらしき那」、「こ万つふ久」、「す、き」と
連綿で書きました。リズムよく運筆し、し
かも流暢さが表現出来ると良いでしょう。
○落款の位置は落ち着いた作品になるよう
工夫して下さい。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ羊毛筆 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱかな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆
書きをしてください。



しほ (し)

な那 (な)

ま万 (ま)

く久 (く)

▲墨

▲墨

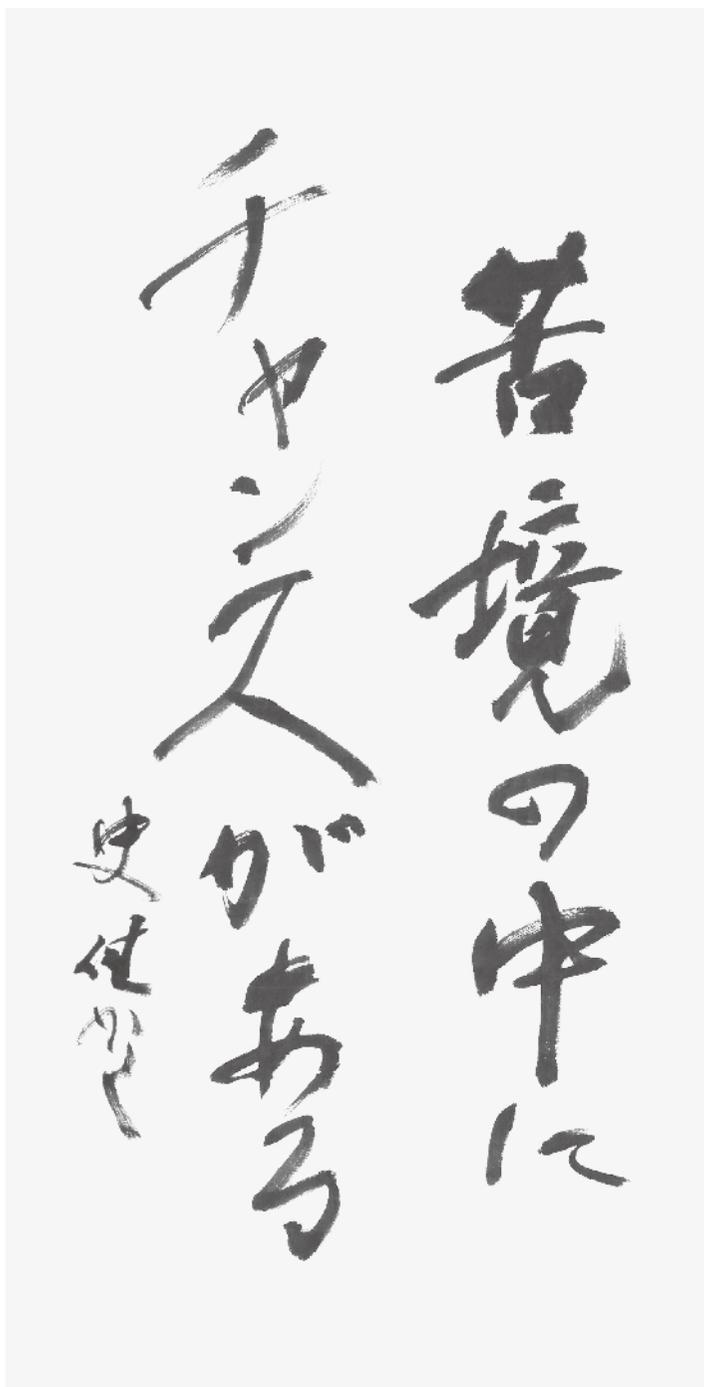
ここで連綿を切り、
左にずらして「し」を書く

○

新
和
様

(八段Ⅱ月例課題
七段Ⅰ初段Ⅱ昇段課題)

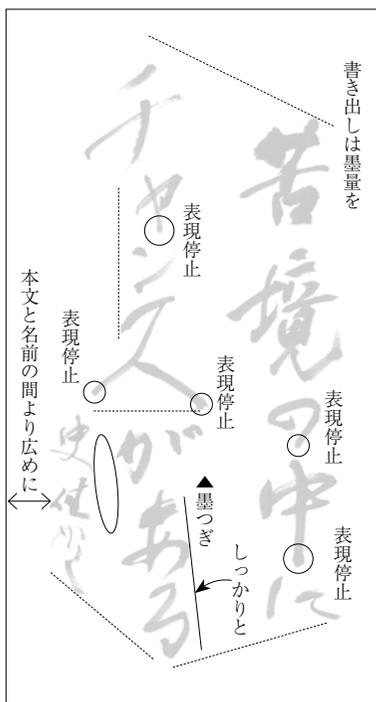
課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



苦境の中にチャンスがある

〈大意〉 苦しい時にこそ好機があるの

で、諦めないことだ。

〈解説〉

○カタカナの入った文です。

○カタカナは、切れのいい線で表現

しましょう。それには、墨量、筆

圧、運筆速度に留意しましょう。

墨つきをしないで、筆圧も軽く、

速めの運筆で書いてみましょう。

○漢字や平仮名との調和に考慮し、

楽しく書いて欲しいと思います。

○名前の大きさや位置は、作品をまと

めるために重要な働きがあります。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆三号羊毛

墨Ⅱ和墨

紙Ⅱ手漉和画仙漢字用

七段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

新 和 様 (1級=昇段課題
2級~10級=月例課題)

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。
課題は段級別です。ご注意ください。

ふるさとには遠きにありて思ふもの

ふるさとには
遠きにありて
思ふもの

(用紙
半紙)

署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

東 仲 遙 邨 先 生 書

ペン（八段Ⅱ月例課題
七段Ⅰ初段Ⅱ昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

堀津節子先生書

加賀貞サ藩では、全国から名工を招き、
工芸の振興を図った。今でも数多く
の伝統工芸が暮らりに息づきつづ。

加賀藩では、全国から名工を招き工芸の振興を図った。
今でも数多くの伝統工芸が暮らりに息づいている。

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、
ボールペン、インクは黒色
（鉛筆は不可）
〈用紙〉 不二硬筆用紙3行書き

〈解説〉

<p>の伝統工芸が暮らりに息づきつづ。</p> <p>1 2</p> <p>止めて</p> <p>点の位置注意</p> <p>小さめ</p>	<p>工芸の振興を図った。今でも数多く</p> <p>広く</p> <p>ハネず一画のように</p> <p>止めて</p> <p>止めて</p> <p>止めて上に</p>	<p>加賀藩では、全国から名工を招き</p> <p>一つはなす</p> <p>タテ長く</p> <p>組合せ</p> <p>止めて</p> <p>タテ長く</p> <p>タテ画右より</p>
--	---	---

上の文字の取筆から※印まで一文字のように続ける

七段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

ペン（1級Ⅱ昇段課題
2級Ⅴ10級Ⅱ月例課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

小島鳳浴先生書



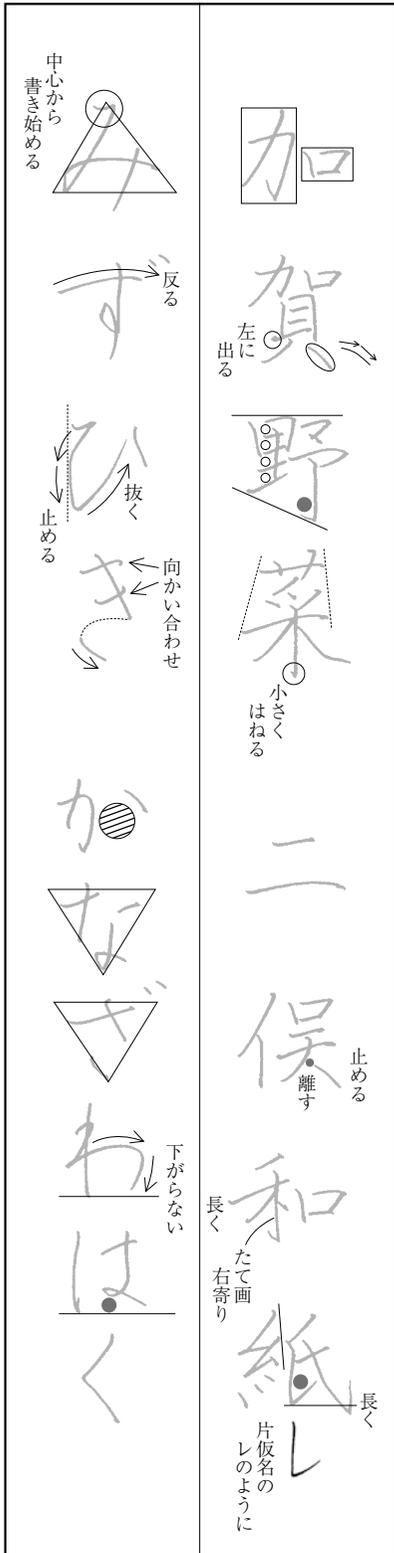
加賀野菜 二俣和紙

みずひき かなざわはく

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン インクは黒色（鉛筆は不可）

〈用紙〉 不二硬筆用紙2行書き

〈解説〉



〃一字書って面白いな〃 — 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〃何か、この字への想を込めて書こう〃
オモイ

(随意課題)
段級に関わりなく出品できます。
評価は天と地になります。

〈平がな一字書〉(参考作品)

わ(この平がなの原字は「和」の草書形)

(用紙 半紙)



〈漢字一字書〉(参考作品)

和(読み)ワ・オ やわらぎ なごみ

〈意味〉①やわらぐ。おだやか。のどか。

②仲良くする。③合わせる。④二つ以上の数を加えたもの。⑤日本、日本語。

(用紙 半紙)



石橋鯉城先生書

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

昔から日本人が大切にしてきた「和」の心。平和、温和、和気、柔和。他に日本国の異名として「和」「倭」と書かれています。大和の和なのです。和様、和服のように日本そのものを指します。

平がなは「まるい字」ですが全体に、いかにも円く書きました。水鳥が水面で後向きに何かを見えています。円い印象を持っていただけましたか？



ノギ偏の草書は、楷書の筆順とは違って、ノ・縦・横・左払・右払の順になります。それを流れ良く書くところとなり。[れ][ね]も同じような形です。

が、こちらは「禮」「禰」が原字です。書いた平仮名から原字の「和」が見えるように。ちなみに片仮名のワは草書の和の傍の部分だけから(漢字の一片から)作られています。

「ノ」と「木」でノギ偏と言いますが、ここでは少し横拡がりに。これがノギ偏だと言わなければかりに場所を取っています。「口」はノギ偏に寄り添って。

「わ」も「和」もト真中に書かず、押印の為に、一寸ズラシて右寄せ、左寄せに書いておく。

〈用具・用材〉

筆||特選水昌と魔法の筆(小さい羊毛、無名筆)二本を重ねて使用
墨||和墨(顕微無間) 紙||松風

ペン字での10分間練習法 ⑬ (随意課題)

石川県	金沢市	七尾市	小松市	輪島市
珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市
能美市	野々市市			
能美郡川北町	河北郡津幡町	河北郡内灘町		
羽咋郡志賀町	羽咋郡宝達志水町			
鹿島郡中能登町	鳳珠郡穴水町			
鳳珠郡能登町				
犀川	別山	姥ヶ滝	尾山神社	白米千枚田
不二				
			前田	利家

教室名

氏名

- (用紙 原稿用紙20字×10行
 用具 ボールペン つけペン 万年筆 デスクペン)

※この段級の方でも出品できます。
 「月別出品券」及び「バーコード出品券」を添付し出品してください。

石川県
 金沢市 七尾市 小松市 輪島市
 珠洲市 加賀市 羽咋市
 かほく市 白山市 能美市
 野々市市 能美郡川北町
 河北郡津幡町 河北郡内灘町
 羽咋郡志賀町 羽咋郡宝達志水町
 鹿島郡中能登町 鳳珠郡穴水町
 鳳珠郡能登町
 犀川 別山 姥ヶ滝
 尾山神社 白米千枚田

20字×10行の原稿用紙に書きます。
 まずは10分以内で書けるように練習して
 みましょう。10分書いても、指や手首が疲
 れないように書くことが大切です。

課題解説

漢字半紙（誌友〜五段）……………（2ページ）

日本武尊像（やまとたけるのみことぞう）

〔課題より〕 石川県金沢市の兼六園内にある日本で最初の西洋式銅像。一八七七年の西南戦争戦没者の慰霊のために建設された。

〔解説〕

○筆写体の書きぶりを覚える。

○それぞれの文字の持つ概形を捉えて、5字をバランスよく収める。

日…2画目の転折部は腋を開いてしなやかに柔らかく折る。太めの線で小ぶりに書く。

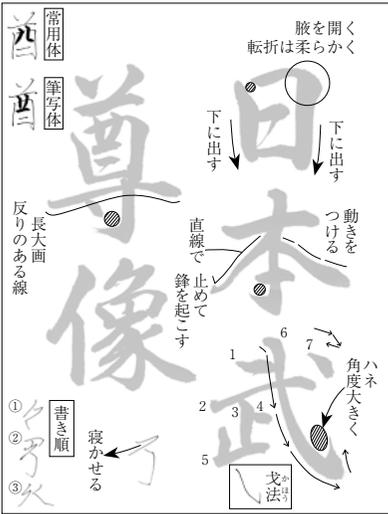
本…左右の払い、左払いは直線的に、右払いは動きをつける。右払いの収筆は一度止めて向きを変えて軽く止める。

武…1・4画目の点は下げる様にして2・5画目と向きを変える。戈法は徐々に鋒を開きながら動きをつける。尊…西を筆写体で書いている。寸の1画目は反りをつけてしなやかに。

像…家の最初の左払いを寝かせて下部の空間を広げる。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松雪



漢字半紙（四段〜初段）……………（3ページ）

能登半島ののとはんとう

〔課題より〕 石川県北部、日本海へ北に向けて突き出した半島。日本海側最大の半島。輪島塗が特産。

〔解説〕

○行書の基本的な書きぶりを学ぶ。

○筆写体の書きぶりを学ぶ。

能…流れ良く書けるヒの筆写体を覚えよう。ノ…1・1の順。熊、態も同様に書くことができる。

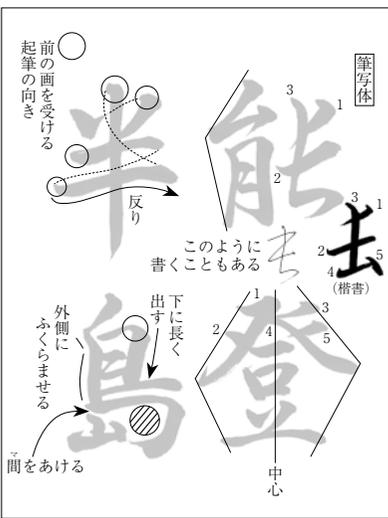
登…はつがしらを大きく開き、豆を入れ込む。3、4、5画目の筆順注意。最終画は短めに。

半…4画目は大きく反りをつける。2画目以降は脈絡を貫通させて、起筆が前の画を受けていることを確認しよう。

島…3画目の転折部は腋を開いてやわらかく曲がる。5本ある横画は鋒先で細目に。山は他の画にぶつからないように書く。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松雪



漢字半紙（1級〜10級）……………（4ページ）

百萬石（ひやくまんごく）

〔課題より〕 江戸時代、加賀藩の石高（所有する土地での米の生産量）は一〇二万石で、徳川幕府について第二位の規模だった。

〔解説〕

○三文字を楷書でバランスよく書く。

○鋒先の位置を確認しながら、きりっとした書線で表現しよう。

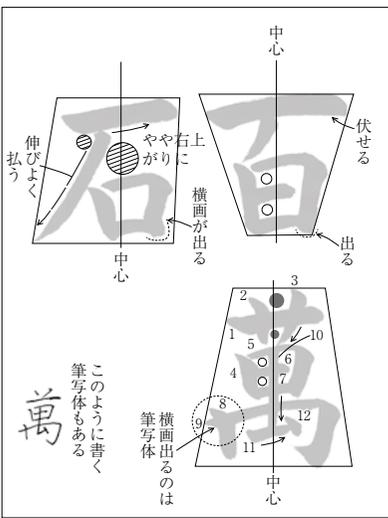
百…1画目の横画は伏せ、「ノ」「日」の組合せ。「日」は下をややすぼめて引き締める。

萬…万の本字。8画目より9画目を左に出す書き方は、筆写体。

石…1画目は、やや右上がりに書き、2画目を伸びやかに払う。左に重さがあるので、「口」を中心より右にしてバランスをとる。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松雪



「秀歌之體大略」

解説 福原溪春先生

秋立ちて幾日もあらねどこの寝ぬる朝明の風は手本涼しも

〔読み〕 あ支たちていく可もあら年と此ねぬる朝介の風八堂もと須、し裳
 〔大意〕 立秋から幾日もたないのに、この寝て起きた夜明けの風は、手首に涼しいことだ。

〔出典〕 万葉集 卷八 一五五五 安貴王

〔原典では「あらねど」↓「あらねば」、「手本涼しも」↓「手本寒しも」〕

〔解説〕

○行の流れを把握して書こう。

・ 連綿は連綿線を短くするため、下の文字が右寄りになるのが特徴です。
 （文字によっては例外もある）中心軸を示したので、確かめながら書いてみよう。

○墨色の変化に留意する。

・ 渴筆部は墨をしばらく出さなつてもりで、ゆっくり連筆する。

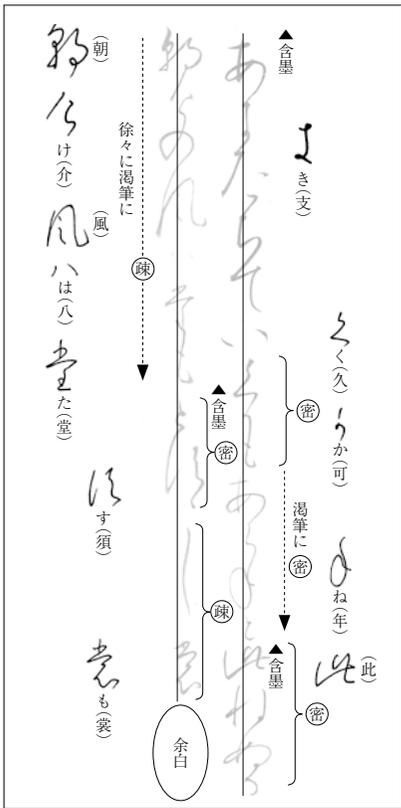
○疎密の変化に留意する。

・ 1行目の後半は、ほとんど密になっている。

○変体仮名・漢字の草書（くずし方）を理解してから書こう。

・ 「年・堂・裳」「此・朝」など。

○5ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。



村雨の露もまだひぬまきの葉に霧たちのぼる秋の夕ぐれ（寂蓮法師）

〔読み〕 むらさ免能つゆも万堂ひぬまきの葉にきり多ちのぼ留秋の夕ぐれ連
 〔大意〕 にわか雨が激しく降り過ぎて、まだその露も乾かない松や杉の葉のあたりから、霧が立ち上っている。秋の夕暮れのもの寂しいことよ。

〔出典〕 小倉百人一首87（新古今和歌集卷五秋歌下491）

〔解説〕

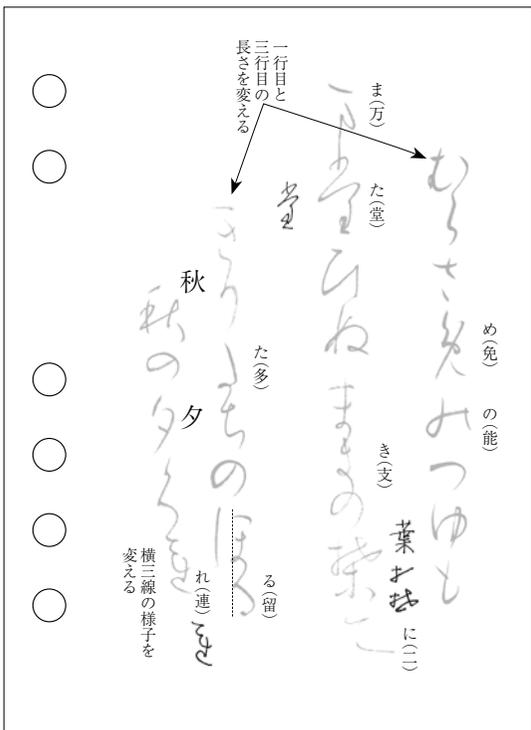
和歌を詠みながら書きましよう。

書く時に、文字の書き方はかりに注意が向いてしまうとしますが、一文字一文字を追うのではなく、和歌を詠みながら文字を書いていきます。和歌の内容が表現・書きぶりに影響することが多々あるからです。

今月は、文節の切れ目で改行しているので、内容が捉えやすいはずですが。秋の物静かな風景を思い描きながら、筆を進めて下さい。

〔用具・用材〕

筆Ⅱかな用小筆 紙Ⅱかな用半紙 墨Ⅱかな用和墨



※左には、教室名・氏名を入れます。

